永井路子さんをしのんで

女性の役割に光を当てた歴史小説家

古河ゆかりの直木賞作家で、古河市名誉市民・古河大使でもあった永井路子(本名：黒板擴子)さん。20年余りを古河で過ごした後も、出版やテレビ・ラジオのコメンテーターの活動を通じて古河をPRし、市の名声を全国的に高めていただきました。

そのほか、古河歴史博物館や古河文学館等の開館の際に多額の寄付や2万点以上にのぼる肉筆原稿、執筆資料・蔵書等を寄贈し、市内中学校等の校歌策定における助言協力を行うなど市の教育・文化面でもご尽力いただきました。

郷里を離れてなお、愛情を注いでくださった永井さんの一生を振り返るとともに、功績や作品について紹介していきます。

永井路子略年譜

0歳 大正14年 3月31日、東京市本郷区弥生町に生まれ、程なく古河に移る

6歳 昭和6年 古河女子尋常高等小学校入学（現：古河第一小学校）

12歳 昭和12年 茨城県立古河高等女学校入学（現：古河第二高等学校）

昭和15年、古河高等女学校の友人と（右から2人目）

16歳 昭和16年 東京女子大学国語専攻部入学。在学中の愛読書は『万葉集』

19歳 昭和19年 東京女子大学国語専攻部卒業

22歳 昭和22年 東京大学経済学部の聴講生となり日本経済史を学ぶ

24歳 昭和24年 東京大学聴講生の時に知り合った黒板伸夫氏と結婚。小学館に入社、創刊準備中の『女学生の友』の編集に携わる

昭和28年『女学生の友』の編集室

33歳 昭和33年 筆名永井路子を使い始める

36歳 昭和36年 『オール讀物』4月号に発表した『青苔記』が第45回直木賞候補に選ばれたのを機に小学館を退社

39歳 昭和39年 同人誌『近代説話』に掲載した『悪禅師』『黒雪賦』『いもうと』に『覇樹』を書き加え『炎環』と題して出版。この作品で第52回直木賞を受賞

昭和40年、直木賞授賞式での永井夫妻

昭和43年、川端康成邸にて

54歳 昭和54年 『炎環』『北条政子』『つわものの賦』『相模のもののふたち』などを原作に、NHK大河ドラマ「草燃える」放映

57歳 昭和57年 『氷輪』で第21回女流文学賞を受賞

昭和57年『氷輪』サイン会

72歳 平成9年 『山霧』『元就、そして女たち』を原作に、NHK大河ドラマ「毛利元就」放映。NHK放送文化賞受賞。茨城県特別功績章受章

73歳 平成10年 永井路子さんの蔵書を中核資料として、古河文学館開館

78歳 平成15年 古河市名誉市民となる。10月、古河文学館にて特別展「永井路子展」開催。特別展開催に合わせ、永井路子旧宅を修復し一般公開開始

平成15年、修復された永井路子旧宅と開館記念式典

82歳 平成19年 初代古河大使に就任

84歳 平成21年 『岩倉具視—言葉の皮を剝きながら』で第50回毎日芸術賞を受賞

平成21年、古河文学館テーマ展記念講演会「『岩倉具視』で言いたかったこと」

97years of life

97歳 令和5年 1月27日、逝去